令和８年度　第１回沖縄県がん診療連携協議会　小児・AYA 部会　議事要旨

日　　時：令和８年６月 25 日（木）　15：00～16：05
場　　所：ＷＥＢ会議
構 成 員：18 名

出 席 者：12 名
朝倉　義崇(県立中部病院血液内科)、大畑 尚子(県立中部病院 産科)、北村 紗希子 (琉球大学病院 第二内科)、古波津 万里子（沖縄県保健医療介護部 健康長寿課)、浜田 聡(琉球大学病院 小児科)、比嘉 猛(県立南部医療センター・こども医療センター 小児科)、金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、當間　健人(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、當銘 保則(琉球大学病院 病院整形外科)、徳元 亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター)、屋宜 孟(県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科)

欠　　席：６名
伊良波 史朗(県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科)、喜納 綾乃(琉球大学病院 看護部)、呉屋 光広(県立森川特別支援学校)、親富祖 しのぶ(県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)、遠越 学(沖縄県教育庁 保健体育課)、銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

陪 席 者：２名
平敷　千晶(琉球大学病院 産婦人科)
石川 千穂 (琉大病院 がんセンター)

【報告事項】

１．令和７年度 第４回小児・ＡＹＡ部会　議事要旨(３月 19 日)
資料１に基づき、確認された。

2. 小児・AYA 部会　委員一覧
資料３に基づき、確認された。

3. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク　委員一覧
資料４に基づき、確認された。
平敷委員より、ネットワークでは、どのようにしたら、主治医より、全ての対象患者に妊孕性温存療法に関する情報が行きわたるのかということが課題となっていること、その説明の手助けとなるための書類を再度作成しているところなので、改めて報告しますとの説明があった。

4. 沖縄県がん患者等妊孕性温存療法研究促進事業実施要綱の一部改正について
資料５に基づき、古波津委員より改正された箇所について説明があった。

5. その他

特になし。

≪協議事項≫

1. 小児・AYA 部会が所掌する分野の第４次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）の中間評価について

(1) 中間評価方法について
(2) 個別施策 1「小児がん患者及びその家族への情報提供」
(3) 個別施策 2「小児がん患者及びその家族への相談支援」
(4) 個別施策 3「琉大病院/南部・こども医療センターへの速やかな紹介」
(5) 個別施策 4「最適な治療の実施」
(6) 個別施策 5「長期フォローアップ」
(7) 個別施策 6「進学や就職の支援」
(8) 個別施策 7「両親や同胞等家族への支援」
(9) 個別施策 8「AYA 世代がん患者及びその家族への情報提供」
(10) 個別施策 9「AYA 世代がん患者及びその家族への相談支援」
(11) 個別施策 10「がん診療拠点病院への速やかな紹介」
(12) 個別施策 11「最適な治療の実施」
(13) 個別施策 12「生殖機能への影響についての情報提供」
(14) 個別施策 13「妊孕性温存療法に関する体制整備」

資料 5-1、当日資料に基づき、増田委員より説明があった。評価方法の説明と評価について依頼が行われた。6 月 30 日までに評価シートを部会委員あてに送付予定、回答は 7 月 14 日〆切となる予定で、事務局からメールで送付される。記入してほしい所は、シートの委員等意見欄と判定欄である。

2. 各市町村に対する「若年がん患者等支援事業」への参加の働きかけについて

資料 6 に基づき、古波津委員よりアピアランスと在宅事業への参加状況について、報告された。アピアランスは、前回と同じ参加状況、在宅のほうは、西原町が加わった。

これまで、市町村の保健衛生担当課に声掛けは行ってきたが、福祉や介護担当課にも情報共有の依頼を行った。引き続き、参加呼びかけに取り組んでいくとのことだった。なお、令和 6 年度の実績は 0 件だったが、令和 7 年度は 2 件の申請実績があったようだった。

浜田委員より、対象者は在宅訪問につながると思われるので、訪問ステーションに情報提供を行ってみるのはどうか、と提案があった。

3. アピアランスケアに係る体制整備について

資料 7 に基づき、増田委員より説明があった。対象は、都道府県拠点病院で、アピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の拡充を行う。第 2 回部会で、琉大での進捗を報告す

る。

4. 次回開催について

次回は、9 月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。

5. その他

第 2 回部会で、部会長、副部会長の選任について協議を行う。

以上

令和８年度　第２回沖縄県がん・生殖医療ネットワーク
議事要旨

日　　時：令和８年８月 31 日(月)　13：00～14：07
場　　所：「Ｚｏｏｍ」を用いたＷＥＢ会議

出 席 者：19 名

阿部 典恵(中頭病院 乳腺科)、池宮城 梢(那覇市立病院 産婦人科)、伊差川 サヤカ(琉大病院 薬剤部)、石川 裕子(県立宮古病院　産婦人科)、稲嶺 盛彦(沖縄赤十字病院 第二産婦人科)、大畑 尚子(県立中部病院 産婦人科)、大嶺 菜(琉大病院 薬剤部)、兼久 梢(沖縄病院 呼吸器内科)、宜保 敬也(琉大病院 産科婦人科)、古波津 万里子(沖縄県保健医療介護部健康長寿課)、島袋 希美(若年性がん患者会 Be style)、友利 晃子(琉球大学病院 がん相談支援センター)、中上 弘茂(県立八重山病院 産婦人科)、平敷 千晶(琉大病院 産科婦人科)、増田 昌人（琉大病院 がんセンター)、宮里 恵子(浦添総合病院 乳腺外科)、宮平礼(北部地区医師会病院 外科)、銘苅 桂子(琉大病院 周産母子センター)、野原理(友愛医療センター 不妊センター)、

欠 席 者： 4 名

宮崎 優樹(ハートライフ病院 産婦人科)、金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、野坂 舞子(友愛医療センター 産婦人科)、比嘉 猛(南部医療センター・こども医療センター 小児科)、

陪 席 者：11 名

天久 美和子（浦添総合病院)、岩崎奈々子(県立八重山病院)、大嶺美幸(友愛医療センター)、國吉洋子(浦添総合病院)、玉城佐笑美(県立中部病院)、當間あきの(友愛医療センター)、成田 明日香(ハートライフ病院)、難波綾乃(琉球大学病院)、東恩納貴子(那覇市立病院)、宮里聡子(友愛医療センター)、宮平奈美子(ハートライフ病院)、石川 千穂(琉大病院　がんセンター)

【報告事項】

１．沖縄県がん・生殖医療ネットワーク　委員名簿

資料１のとおり、紙面報告がなされた。

２．前回　妊孕性温存療法 WG　議事要旨(5 月 21 日)

資料２のとおり、紙面報告がなされた。

３．小児・AYA 部会　委員名簿

資料３のとおり、紙面報告がなされた。

４．前回　小児・ＡＹＡ部会　議事要旨（6 月 25 日）

資料４のとおり、紙面報告がなされた。

５．沖縄県のがん患者等妊よう性温存療法研究促進事業助成実績

資料 5 に基づき、古波津委員より報告があった。令和 7 年度については、温存後生殖補助医療の件数が令和 6 年度と比較して倍ほどになっている。引き続き、各施設でご案内していただければ、とのことだった。

６．がん診療連携拠点病院等の指定要件の改訂について

資料 6 に基づき、増田委員より報告があった。

７．小児がん拠点病院等の指定要件の改訂について

資料 7 に基づき、増田委員より報告があった。

８．妊孕性温存に関する質問促進資材について

資料 8 に基づき、増田委員より情報提供があった。

9. その他

特になし。

【協議事項】

１.琉球大病院における妊孕性温存療法の実施状況と今後の紹介先割り振りについて

資料 9 に基づき、銘苅委員より提案があった。原則として、中部以北の病院の症例は琉大病院へ、南部地域、乳がん症例は友愛医療センターへの紹介となることが承認された。また、友愛医療センターの野原先生より、小児と血液内科疾患については、できるだけ琉大に紹介をお願いしたい、乳がんについては積極的に紹介していただければ、とのことだった。

以下、質疑応答。

(宮里委員)　以前は、友愛医療センターでは採卵はしても戻すことは対応していないはずだったが、今後は、妊娠に至るまでみていただけるか。

(野原先生)　特に制限はしていない。保存も移植も行う。

(阿部委員)　乳腺の患者さんに限って友愛に紹介したほうがよいか。泌尿器科等も含め、友愛医療センターに紹介で良いか。

(野原先生)　中頭病院は当院に紹介という割り振りである。ただ、キャパシティを超える状況になれば、乳がん症例でも琉大に紹介することもある。

(阿部委員)　乳がん以外、前立腺がんも友愛医療センターに紹介して良いか。

(野原先生)　いったん紹介していただいて、友愛医療センターで対応が難しい症例の場合、

こちらから琉大に相談する。

(銘苅委員)　南部医療センターも症例数が比較的多いが、ほとんどが大人の紹介となっている。月経がまだの場合は卵巣凍結となるが、そこまで頻度が高くないため、小児の卵巣凍結の場合は琉大に紹介となる。原則という形で依頼しているが、症例ごとに難しい場合が多々あるので、琉大か友愛のいずれかにご連絡いただき、紹介先について相談していただければと案内があった。

２．拠点病院等において、対象患者すべてに、生殖機能の温存に関する説明を共用文書を用いて行うにはどうしたらよいか

資料 10 に基づき、宜保委員より提案があった。これまで各施設で電子カルテに入れていた説明文書が患者さんに伝わりづらいところがあったため、モデルチェンジを行ったとのこと。紹介先として琉大と友愛医療センターが記載されており、裏面には金額や助成金についても記載されている(資料 10-1)。また、がん生殖連携シートも改訂があり、対象年齢(原則)について追加されている(資料 10-2)。

以下、資料 10-2 における、対象年齢に関する質疑応答。

(阿部委員)　原則、対象年齢は 43 歳未満だが、43 歳以上でカウンセリングを希望される場合は紹介してくださいという書き方が、わかりづらい。

(銘苅委員)　カウンセリングのみは可能であることがわかりやすいように、文言を修正する。

(宮里委員)　増田委員に伺いたいが、乳がんの助成のケースで、43 歳以上が妊孕性温存療法の対象とならないとなると、妊孕性の説明自体が 43 歳までの方を対象に説明することとなるのか。

(増田委員)　何歳でも説明して構わないが、補助金がでるのが 43 歳未満なので金額的な負担が大きいことと、がんとは関係なく年齢的に非常に可能性が低くなってしまうということは、説明することが必要である。

年齢によって患者さんに選択肢がなくなるというわけではなく、自費での生殖医療を受ける選択肢はあるということだった。

また、宜保委員より、がん・生殖カウンセリング連携シートについて、感染症情報のチェック欄が未記入で、結果も添付されてないことがよくある。精子凍結の場合、受診したその日に凍結となっているので、結果の添付を忘れずにお願いしたいと依頼があった。

増田委員より、感染症検査の有無ではなく、「HBs 抗原　陽性 / 陰性」という書き方が一般的ではないか、そのうえで、検査結果を添付するのはどうかとの提案があり、そちらも改訂することとなった。

また、今後、友愛医療センターへ紹介することになる施設から、料金やカウンセリング内容について記載されているパンフレットのようなものがあると、説明しやすいとの依頼があり、友愛医療センターの方で検討することとなった。

今回いただいた資料 10-2 の改訂に関するご意見をもとに、琉大の方で再度改訂しなおした後、各施設で電カルに掲載されているデータを差し替えていただく。 また、各施設の紹介先についての書類と、患者さんへの周知用のポスター類（10-3、10-4、10-5、10-6、10-7）も再送する。周知用ポスター類は各施設で印刷して使用していただくよう改めて案内された。

３.次回開催日程について

次回開催の際は、事務局より日程調整のアンケートを行う。

４．その他

特になし。

以上

令和８年度　第２回沖縄県がん診療連携協議会　小児・AYA 部会　議事要旨

日　　時：令和８年９月 10 日（木）　16：00～17：30
場　　所：ＷＥＢ会議
構 成 員：18 名

出 席 者：10 名
朝倉　義崇(県立中部病院血液内科)、伊良波 史朗(県立南部医療センター・こども医療センター放射線科)、大畑 尚子(県立中部病院 産科)、親富祖 しのぶ(県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)、北村 紗希子（琉球大学病院 第二内科)、金城 敦子(がんの子どもを守る会沖縄支部)、古波津 万里子（沖縄県保健医療介護部 健康長寿課)、徳元 亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、増田 昌人（琉球大学病院 がんセンター)、銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

欠　　席：８名
喜納 綾乃(琉球大学病院 看護部)、呉屋 光広(県立森川特別支援学校)、當間　健人(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、當銘 保則(琉球大学病院 病院整形外科)、遠越 学(沖縄県教育庁 保健体育課)、浜田 聡(琉球大学病院 小児科)、比嘉 猛(県立南部医療センター・こども医療センター 小児科)、屋宜 孟(県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科)

陪 席 者：１名
石川 千穂（琉大病院 がんセンター)

【報告事項】

１．令和８年度 第１回小児・ＡＹＡ部会　議事要旨(6 月 25 日)
資料１に基づき、確認された。

2.小児・AYA 部会　委員一覧
資料３に基づき、確認された。

3.沖縄県がん・生殖医療ネットワーク議事要旨(8 月 31 日)
・琉球大学病院における妊孕性温存療法の実施状況と今後の紹介先割り振りについて
資料 12(別紙)に基づき、銘苅委員より報告があった。妊孕性温存症例の紹介先について、原則、中部以北の病院の症例は琉大病院へ、南部地域、乳がん症例は友愛医療センターへ紹介してもらうこととなったと報告された。

4. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク　委員一覧
資料４に基づき、確認された。

5. がん診療連携拠点病院等の指定要件の改訂について

資料４に基づき、増田委員より説明があった。

（銘苅委員）　生殖医療に係る説明を行う人材育成を行うのは拠点病院だけか。
（増田委員）　県内だと６つの拠点病院だけになる。
（銘苅委員）　それぞれの病院でのがん生殖について説明を行う人材の育成は難しいのではないか。また、学会が認定する人材を育成しなくてはならないが、認定には条件があるので、それを見据えて準備をしないといけない。
（増田委員）　指定要件は具体的な細かい内容は記載がなく、地域の実情に合わせて、協議会や部会で検討しないといけない。銘苅委員がおっしゃったことについても、次回の指定要件改訂も見据えながら、今後、この部会の議題にして相談できれば。

6. 小児がん拠点病院等の指定要件の改訂について

資料５に基づき、増田委員より説明があった。

7. アピアランスケア支援事業（沖縄県若年がん患者等支援事業）における市町村の参加状況について

8. 若年がん患者在宅療養生活支援事業（沖縄県若年がん患者等支援事業）における市町村の参加状況について

資料6、7に基づき、古波津委員より報告があった。アピアランスケア支援事業は、一か所増えた。若年がん患者等支援事業は、市町村へ電話でも参加呼びかけを行っているが、今のところ前回から増加はしていない。引き続き、呼びかけを行っていくとのことだった。

9. AYA サポートチーム活動の手引きについて

資料８に基づき、増田委員より説明があり、AYA サポートチームの立ち上げの際の参考として案内があった。

10. 「令和８年度がん教育外部講師育成研修会」後援について

後援の可否についてメール審議が行われ、９月２日（水）に、後援することが承認された。

資料９に基づき、徳元委員より研修会の詳細について説明と、周知依頼があった。

11. その他

特になし。

≪協議事項≫

1. 今年度の部会長、副部会長の選出について

今年度も、部会長は浜田委員、副部会長は北村委員と銘苅委員が継続となった。

2. 小児・AYA 部会が所掌する分野の第４次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）の中間評

価について

(1)　中間評価方法について
(2)　個別施策 1「小児がん患者及びその家族への情報提供」
(3)　個別施策 2「小児がん患者及びその家族への相談支援」
(4)　個別施策 3「琉大病院/南部・こども医療センターへの速やかな紹介」
(5)　個別施策 4「最適な治療の実施」
(6)　個別施策 5「長期フォローアップ」
(7)　個別施策 6「進学や就職の支援」
(8)　個別施策 7「両親や同胞等家族への支援」
(9)　個別施策 8「AYA 世代がん患者及びその家族への情報提供」
(10) 個別施策 9「AYA 世代がん患者及びその家族への相談支援」
(11) 個別施策 10「がん診療拠点病院への速やかな紹介」
(12) 個別施策 11「最適な治療の実施」
(13) 個別施策 12「生殖機能への影響についての情報提供」
(14) 個別施策 13「妊孕性温存療法に関する体制整備」

増田委員より画面共有された資料に基づき、説明された。増田委員の方で、個別施策シートを作成しており、できるだけ早い時期に委員に送付する。各自が関わっている内容や興味がある項目だけでも良いので、委員等意見欄に記入をしていただきたいと依頼があった。

以下、増田委員が提示した資料のうち、患者体験調査の回答に関しての意見等。

（銘苅委員）　生殖温存についての説明を受けた患者さんが、全国より低い値だった。乳がんの患者さんだと、ほとんど説明を受けているのではないかと考えられるが、小児・AYA 世代では稀な脳腫瘍や肺がん、血液疾患等の緊急を要する患者さんが多く含まれているのであれば、その病院や医師にターゲットを絞って情報を与えてみてはどうか。

（増田委員）　詳細については調査を行っていないので、ターゲットを絞るのは難しい。この調査結果の利用方法としては、全国と比較して値が低いか高いかをみて、低いなら注意喚起を行うこと、値がベストの県を目標とすること、そのために何をしたらよいか部会で協議する、等である。銘苅委員の提案のように、特定の集団に絞って必ずやるべきことをやるということは、効率が良い。また、例えば、急性白血病だと急を要するが、そのような場合でも妊孕性温存療法について説明できているか、どのように説明をするかということを診療科や血液内科医で話し合うことは大切である。これらのことについても、この部会で話し合えるのではないか。

3. 各市町村に対する「若年がん患者等支援事業」への参加の働きかけについて

資料 7 に基づき、増田委員より提案があった。時間の都合により、具体的な協議は次回以降に持ち越された。引き続き、県からの呼びかけや、各自からも関係者へアプローチをかけてほしいと依頼があった。

4. アピアランスケアに係る体制整備について

資料 11 に基づき、増田委員より説明があった。すべての拠点病院でアピアランスケアに取り組むことが、指定要件において義務化されているとのこと。琉大では素地ができているので、何か不明な点があれば琉大に問い合わせてくださいと案内があった。

5. 次回開催について

次回は、12 月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。

6. その他

特になし。

以上